

一通のメールをめぐって政
 党の党首交代にまで及んだ
 「偽メール事件」も既に風化
 しつつあるが、情報の取捨選
 択の大切さを教えてくれたと
 いう点で、教育現場に残した
 教訓は大きい。

かつてアメリカ大統領選挙
 でケネディがニクソンに勝利
 した背景に、テレビという新
 メディアの出現があったよう
 に、公職選挙法改正によりイ
 ンターネット上の選挙運動が
 可能になれば、ネットが国の
 方向性に及ぼす影響はさらに
 大きくなるだろう。

情報を受け止める側の人間
 を育てる教育「ネットリテラ
 シーの育成」が必要である。
 ではいつからどのような教
 育を始めたらいいいのか？
 まず、時期である。現状で
 は高一から教科「情報」が始
 まるが、リスク管理上これでは
 遅すぎる。私たちの学校で

解答乱麻

品川女子学院 校長 漆紫穂子



うるし・しほこ 東京都内の私立中から父が理事長を務め
 る品川女子学院中高に移り、国語教諭、副校長を経て4月か
 ら現職。文部科学省新教育システム開発プログラム委員。

は中一から始めているが、そ
 れでも既に多くの生徒がネッ
 ト上で情報の受発信を経験し
 ている。中には小学校のとき

法整備が間に合わない現状で
 は、利用開始と同時に自分で
 自分を守る知恵を身につけさ
 せなければならぬ。
 次に、教育内容である。手
 元の教科書をめくってみる

ネットの功罪教えよう

チャットをしていて相手が同
 年層くらいと思いきや、い
 ら、親と同じ年代と分かりび
 つくり、という子もいた。

と、「コンピューターやスキ
 ヤナ、ビデオ、FAXを情報
 機器という」などという機器
 ・用語の解説に多くのページ
 が割かれている。利用率の高

悪質な情報から子供を遠ざ
 ける「フィルタリング」など
 もあるが、家庭と学校のPC
 環境のみが安全でも一歩外に
 出ればそうはいかない。ネッ
 ト世界の急速な拡大に対して

信者としての表現力とマナー
 を身につけることではないだ
 ろつか。
 私たちの学校では、情報の
 授業を他教科のリポートとリ
 シュクさせ、ネット検索と情報
 の信頼性のチェックを行った
 り、同じ写真を各自が加工
 し、発信者の意図によって情
 報が編集されることを体感さ
 せてきた。教科の枠を超えて
 さまざまな試みをしている。
 希望者向けのネットリテラシ
 ーの講座では、ヤブの協力を
 得て、模擬フィッシングサ
 イトでの疑似体験も行った。
 子供たちはこのような体験学
 習を通し、インターネットの
 力とリスクを実感している。
 ブログ、SNS、スカイプ
 等々、コミュニケーションの
 手段としてのネット利用が拡
 大している。しかし、同じ場
 所で、顔を合わせ、言葉を交
 わすコミュニケーションに比
 べると、ネット上のコミュニ
 ケーションで伝わるものはそ
 のごく一部であることも忘れ
 てはいけない。

学校は、子供たちの将来を
 見つめ、新しい可能性を常に
 示しながら、時代が変わって
 も変わらない大切なものを伝
 え続けなければならないので
 ある。

教育

毎週月曜日掲載